

---

# 次元渡り

clear

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

次元渡り

### 【Nコード】

N5345BA

### 【作者名】

clear e

### 【あらすじ】

都内で一人暮らしをしながら専門学校に通う女性、冴木漣には生まれつき不思議な力があつた。左右で違う色の瞳を持つ彼女は左目で過去を、右目で今を見ていた。

思むべき力を持ち、己の存在が許せない彼女はある夜、一人の男を拾った。月の光で染めたような銀の髪と冬の湖のような瞳の男。

美しい青年に導かれ、彼女の運命が回り出す。



## プロローグ

お願い、お願い、助けて。

声がする。誰かが私を呼ぶ声。

お願い、あなたなら助けられるから。

助ける？誰を？

あの人を、彼を、優しい人を。

優しい、人？

そう、優しい人。

ふと、目が覚めた。辺りはまだ闇に包まれていた。ベッドサイドに置かれた時計に視線をやると、時刻は午前3時。冬の朝は薄暗く、寒い。肌を刺すような寒さにブルリと身を震わせて、彼女はベッドから起き上がる。

「さむっ」

薄いカーディガンを肩に羽織、室内履きに足を滑らせるとリビングへと移動する。暖房器具のスイッチを入れて、コンロで湯を沸かすとソファの上に放り出してあったひざ掛けにくるまる。立てた両ひざに顔を埋め、彼女はため息をついた。

何故、あんな夢を見るのか？自分が誰かを助けられるわけなどないのに。

やがて、シュンシュンと音を立てて蒸気が吹き上げ始めたケトルを火から下し、カップに熱湯を注ぐ。湯気の立つカップを両手で包み、一口啜るとホウツと息を吐いた。

「助けて、かあ……」

そのまま、特に何をするでもなくぼんやりと座り込んでいた彼女は、勢いよく立ち上がるとぶんぶんと頭を左右に振る。パンつと自ら頬を叩くと、大きな声で気合を入れる。

「しっかりしろっ！！夢に悩むよりやる事があるでしょっ！！」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5345ba/>

---

次元渡り

2012年1月14日21時05分発行